

会 報

東北大学教育学部
同窓会東北支部

カット：小高幸子(33年入学)

変革期を迎えた教育研究科・ 教育学部の構想と課題

教育学研究科長・教育学部長 工 藤 与志文

今年の4月に教育学部長に就任した工藤と申します。初めてですので、簡単に自己紹介いたします。私は昭和57年に東北大学教育学部に入学し、教育心理学科を卒業後、大学院教育学研究科に進みました。その後、教育学部の助手として東北大に就職し10年ほど勤めた後、札幌の私立大学に移りました。平成21年に再び東北大に戻り、現在に至っています。このように、私は学生時代から今日まで、一時期を除けば、すべて東北大学教育学部・教育学研究科のお世話になっているといっても過言ではありません。このたび学部長職を拝命し、これまでの恩返しが少しでもできればと思っています。

さて、本学部・研究科の現状ですが、変革の時期を迎えております。大学院について言えば、教育情報学研究部・教育部との組織統合を進めており、平成30年度から新しい教育学研究科として生まれ変わる予定です。それに伴い、研究コースの再編も進めています。特に、教育の情報技術化やグローバル化の進展に対応できるよう「教育情報アセスメントコース」と「グローバル共生教育論コース」を新設する予定です。また、「臨床心理学コース」では、我が国初の心理職の国家資格である「公認心理師」の受験資格に対応するためのカリキュラムを整備中です。

近年、「社会における大学の位置」について、大学側が自覚的になるよう求められることが多く

なりました。大学といえども、社会の動きに無関心ではられません。今回の「会報」は女性会員の投稿を中心に構成されるとうかがっておりますが、男女共同参画社会の実現というのも、社会の動きの一例と言えます。大学に限らず、女性の活躍が日本の今後の発展にとって不可欠であるという認識は広く共有されているところだと思います。東北大学では現在、女性教員の比率を上げるべく、全学的な取組を進めているところです。これからも東北大学ならびに教育学部・教育学研究科をご支援いただきますよう、お願い申し上げます。

平成29年度 総会のご案内

平成29年度の東北大学教育学部同窓会東北支部の総会を下記の通り行います。皆様お誘い合わせの上、ご出席ください。

記

1. 日 時 平成29年11月11日(土) 午後1時
2. 会 場 東北大学文系総合研究棟大会議室
3. 日 程 午後1時～ 総会
午後1時50分～3時 講演会
講演会終了次第 懇親会
- ・会費(5,000円) ・当日お納め下さい。
4. 講 師 佐々木徹郎先生(講師プロフィール:P10)
5. お願い 同封の返信用葉書にて参加のお申し込みをお願いします。

11月1日(水)までにご投函下さい。

東京と白石の女学校の先生方のこと

岡崎 しほ (24年入学)

私は、東京の神田に生まれ、神龍小学校を終え、渋谷の実践女学校に進みました。実践では、生徒の私たちに理解が深い、英語担当の浅井先生ほか多くの先生方に元気をいただきました。

やがて、母の実家のあった白石に疎開し、転校した白石女学校では、竹槍訓練や山の炭焼き小屋での労役、野良仕事などさまざまな労働を課せられました。楽天的な私は、いつも楽しく毎日を送っていました。

実践で音楽を担当されていた高名なピアニストの井口基成先生が、すでに白石に疎開しておられ、学校でピアノをひいてくださるようになりました。全国一流の演奏家や歌手を白石に招き、この町に文化の大きな華を咲かせてくださいました。後に小澤征爾や後進を育てられ、桐朋の学長にもなられました。

実践で英語を教わった浅井先生も偶然白石に疎開されました。はじめて私たちの女学校に来られた時、私を覚えていて下さり、多数の生徒の中に私を見つけ、私の名前を呼んでくださいました。私にとって、この再会は感激的でした。

白石女学校の生物担当の先生は、何かひ弱で、頼りなく、私たちは、日常不満に思うことがありました。ある学期末、私は、答案に採点ミスを見つけ、憤然として職員室に行き、訂正を申し入れました。ところが、先生は快く訂正して下さっただけでなく、卒業時には、サイン帳に美しい見事なバラのカットまで描いて励ましてくださいました。これは、私の宝物になりました。

私は7人兄弟姉妹の長女でしたので、進学はあきらめておりましたが、東北大学に1年制の教員養成課程のあることを知り、受験しました。

白石から乗った仙台行きの列車の中で、偶然解いた三角関数の問題が、入試にそっくりそのまま出たのが昨日のこのようです。

暗い思い出のなかの恩師たち

千坂みどり (24年入学)

小学校時代の恩師についての思い出を語るようにとの課題ですが、私には、お話できるような内容の思い出はまったくありません。

こういうお答えも、答えの一つのあり方だと思いますので、どうか、お許しください。

私は、今年、米寿を迎えますので、過去の記憶は薄らぎつつありますが、小学校の頃のあまり良からぬ思い出は、変に鮮明です。

私の小学生時代は、今から70~80年昔のこと。当時は戦時中でした。

私が通っていた角田の小学校には、全国どこの小学校にも置かれていた「奉安殿」が、校門近くにあり、先生が登下校する子どもたちを、奉安殿におじぎをするかどうか、見張っているのです。

奉安殿には、天皇・皇后両陛下のご真影が納められてあり、教職員や生徒はその前を通る時、礼拝し、忠誠と大戦の戦勝を祈るのです。

ある朝、校門をくぐり、奉安殿を通り過ぎる頃、男性教師が、つかつかと私に歩み寄り、大きな手で思い切り、私の頬に「びんた」を張りました。私は、うっかり、礼拝もせず、通りすぎていたのかもしれないませんが、「びんた」の痛み、不快さ、いかに言えない不条理を、子ども心に、いつまでも、忘れられないまま、大人になりました。日常の授業も、軍隊的な規律が重視され、軍国主義的内容の教材を暗誦させられるばかりでした。

戦後、「退職女教師たちの会」ができ、往時の先生方が、戦時中「お国のために手柄をたてよ」と戦場に送り出した教え子のほとんどが戦死した哀しみと怒りをぶちまけておられましたが、私たちも、同じ思いを共有し、平和を語り合う機会を得ました。本当に、戦争は嫌です。

国民学校や女学校の 恩師たち

山形 潔子 (26年編入学)

私たちが片平国民学校、いまの片平小学校の5年生の時に戦争が始まった。小学校の校舎は、御霊屋の霊廟や天守台に向って建てられおり、その方向が式典などの上座と考えられていた。

毎月、第一月曜日は「大詔奉戴日」といって、開戦の折の詔勅に因み、教職員が5、6年生全員を引率して、天守台に登り、それぞれの至誠を表すかのごとき、清掃が行われた。

私たちのクラスの担任は、山形先生という、30代の女教師であった。すぐれた資質と厳しいご性格に特徴があり、クラス全体の和を大切にされ、生徒一人ひとりに、わけへだてなく、心をくだかれた。私たちのことを何よりも大切に思っていてくださっていることが理解され、心からありがたいと思ったことである。

先生は、卒業後も、教え子のことを心にかけてくださり、私の結婚式にも出てくださった。

先生のすばらしい人格と終始変わらぬご配慮は、その後、教師となった私にも大いに参考になり、範として仰ぐ多くのものをいただいた。

一女高の頃、戦争は終わった。私たちは、終戦を本当に喜んだ。復員した飛行服姿の男の先生やもんぺ姿の女の先生が、様々な場で、様々な立場から、戦争の悲惨さ、むごさを話してくださった。同時に、罪悪である戦争に加担したことを深く反省されていた。価値観が変わり、すべての混乱が始まったが、私たちは先生方とともに、新しいものに眼を見開かされつつあった。



「アルペロベッコの風景」(イタリア) 小高幸子(33年入学)

丸森小学校での思い出

高橋 時子 (27年入学)

伊具郡丸森町出身の父は、旧制角田中学校から東京外国語学校ロシア語科に学び、角田中の先輩T代議士の推薦で、東京府庁の職員として働いていた。

私は、東京の杉並で生れ、杉並第十小学校に学んだが、戦火が激しくなった高学年の頃、父の郷里、宮城県に疎開し、角田小学校5年生に転入した。2学期ばかり角田に通ったのち、伊具郡丸森の丸森小学校に移り、そこを卒業した。

東京杉並や角田の小学校での記憶はほとんどないが、丸森小学校には、あべくみ先生という、眼鏡をかけた年配の先生がおられた。館山から通っておられたこの先生は、見るからにまじめで、しっかりしておられ、皆から信頼されていた。女子師範学校を出た優秀な先生のような方だった。

丸森小学校には、さとうまつこという、若くて、とても美しい先生がおられた。たしか、独身だったようである。まつこ先生は、生徒に一切わけへだてなく、えこひいきなく、皆を平等に愛してくられた。

先生方は、東京から疎開でやってきた転校生の私たちにも、とても優しく、どんなことでも丁寧におしえてくれた。

当時、どこの学校でも、県外から来た転校生には、多かれ少なかれ、差別やいじめがあったようだが、私たちの学校ではそんなことは起こらなかった。これは、先生方の私たち生徒への愛情ときめ細やかな配慮の賜物であろう。

角田高女併設中学校に進学してのち、仙台市役所に転勤した父の仕事の関係で、宮城県三女高に転校した。角田で数学を教わった庄司先生ほか多くの恩師にお世話になり、いつも幸せであった。

恩 師

— みんな違ってみんないい —

小關 友子 (31年入学)

小中学生の頃の恩師の思い出、それは日本の戦前戦後の混乱期と重なります。「東京はその内、焦土と化す。食料もなくなる」ということで、私は、小1で東京から黒川郡に疎開一子供ながら強烈なカルチャーショックを受けたことを覚えています。周囲の風景は勿論、着るもの、生活様式などすべてが！？でした。当時の写真を見ると、男の子は緋か縞の着物、女の子も着物にもんぺ、はき物は藁ぞうりか下駄、はたまた素足でした。

困ったことは、先生の話が分からないことでした。「なす」？「なし」？「ブンノコトをよく見て」「アクトをふいてー」どこを見、何を拭けばよいのか、また語尾に「～すか」「～だっちゃ」etc.発音、イントネーションも全然違うので、私は一時寡黙になりました。当時は、テレビからの情報、影響もなく、ラジオ・新聞さえない家があり、情報量の格差は大きい時代でした。

小2の時は、女学校を卒業したての若い先生、小3・4・5年は地元の先生。小6年の時は台湾から引き上げてきた、厳しい女の先生。並んでビンタを貰いました。その理由は、いまだに定かではないのですが、先生を困らすことを連日繰り返す悪ガキ集団だったのでしょう。でも、別に先生を恨むでもなく皆、仲良く過ごしていました。

いよいよ中学生時代、3年生になって素晴らしい先生に出会いました。理科の先生で、私は初めて宇宙の遠大さ、不思議を、自然の奥深さを教えていただき、学ぶたのしさを覚えました。

一方、この先生は精神性の深い先生で、放課後や夜、先生のお家で「歎異抄」「天地有情」などを教わり、いまだに一部を誦んじております。優しい先生、厳しい先生、それぞれの先生のお陰で今日の自分があると、懐かしく感謝です。

教師姿勢を培って くださった先生方

高橋さちよ (31年入学)

名取郡秋保村立秋保小学校（現仙台市）を皮切りに小学校教員として40年間の務めを全うできたことは、大変幸せなことである。

教員にとってまず教科指導が第一ではあったが、「子どもたち自身の楽しい学校生活」には、友人確保や生活全般にわたる広く、細やかなやさしい心づかいが必須だった。

私は在職中「子どもへは本気でやさしい心で」を心掛けたつもりだが、これは私が低学年時代に経験した恩師の方々の（私たち生徒への）対応が影響したと思われる。

今回、「恩師の思い出」を綴る機会を得、教師としての姿勢を培って頂いたお二人の先生の、私の心底に残っているご指導を記す。

その1. 昭和19年小学1年時の避難訓練。

「警戒警報」の合図で校庭へ出る時、走るのが遅い子たち何人かが、F子先生からびんたをもらった。その中に私もいた。一所懸命走ったのに！80年を経たが、あのたった一回経験したびんたの痛さ、悔しさは鮮明に目に浮かび上がる。

その2. 小学2年生の学芸会。

2年生女兒が「てるてる坊主」を踊ることになり、選ばれて練習した。発表日近くになり着物を用意するようにS子先生から指示された。私は姉のお下がりを持参したが地味だったようで返された。本番の舞台には立てなかった。終戦直後で生活に喘ぐわが家では準備は不可だった。

すべての面でめざましい発展を続ける昨今、教育内容、教育手段も大きく変化し教師も子どもたちも何かと厳しい日々と推察している。子どもたちの成長に寄せる社会の期待は大きい。学習手法が変わろうと「心の教育」は不変である。子どもたちの楽しい学びを蔭ながら祈っている。

励ましてくれた先生方

三縄 貞子 (32年入学)

私は福島県海辺に面した相馬の中村町に生まれ育ちました。私は双子で生まれ、母子の命の危険の中で誕生しました。あとに生まれた妹は酸素不足で脳の障害をもって生まれました。

幼い頃から私は妹の面倒を見、小中学校の頃、妹と一緒に登下校し家に帰ってもお友達とよく遊びました。特殊学級も養護学校もない時代です。私はどちらかというとおとなしい子供で、時々妹がいじめられることがあり、心を痛めたこともありましたが、妹を守ることに一生懸命でした。担任の先生はそんな私を静かに見守ってくれ、父母会や懇談会の折、母に「貞子さん、がんばってますよ」と声をかけていたようです。

卒業式では、学年で一人、「市長賞」をいただきました。先生方は、私の努力を認めてくださったのかなと、うれしさと驚き同時に感激したのを覚えています。

中学校の定期試験や模擬試験の結果が廊下に張り出されることがよくありました。「やればできる」と意欲がでてきました。妹の世話をしながら懸命に勉強し、東北大学の経済学部に進学していた兄二人に続き、大学進学を志すようになりました。恩師たちの励ましと家族の協力によって、相馬から宮城一女高へと転校し、大学進学を果たすことができました。

卒業後横浜で仕事につき家庭を持ち多くの幸せに恵まれました。この幸せを妹と共有したいとほぼ毎月相馬の実家に帰り夫の運転で市内をドライブするなど楽しいひとときを過しました。約20年続きましたが、4年前に妹は亡くなりました。今思うことは、いつも蔭で励まし支えてくれた家族や多くの恩師たちの姿です。先生ありがとう、みなさんありがとう。

楽しかった英語の思い出

小高 幸子 (33年入学)

ラジオが唯一の娯楽だった。木曜8時「君の名は」を家中で聞いた。翌朝教室はこの話で盛り上がった。学校帰り先生方のまねをしたり、習った歌をハモったりで、なかなか家に帰着かないのだった。学校が生活のほとんどを占めていた。

中学校に入学し初めての英語。二人の先生に教わった。わかりやすく忍耐強く指導して下さった女の山田先生。授業が面白く待ち遠しかった。

先生は、休日に隣市で観てきた洋画の話をして下さった。特にC.ヘップバーンの「旅情」はよほど感動されたのか熱を帯びていた。紅潮した先生のお顔が今でもはっきりと浮かぶ。喜びにあふれいきいきとした先生のお姿に教師っていいな、教師になろうかなと憧れた。

もう一人は男の岩井先生。長身で鼻が高く外人っぽい。「シンデレラ」の英語劇で私は魔法使いのおばあさん役。理科室の暗幕で体を包み杖を持ち、一見しただけで誰もが吹き出しかねない姿。「シンデレラ! どうしたの?」と慣れない英語、しかも大げさなみぶりに観客は大笑い。今でもあの笑い声が聞こえてきそうだ。

郡内中学校英語暗誦大会に出るため、男女3人夜、学校に行き、指導を受けた。月が美しく木の影がくっきりと道にあった。10月頃だったか。何度も何度も身ぶり手ぶりをつけて暗誦し録音しては聞きまた練習した。ある時練習に飽きたのか当時流行っていた「芸者ワルツ」を唄い、録音機をそのままにして帰宅してしまった。翌朝職員室に行くとき先生方が笑っている。しまったと思った時はもう遅かった。まっ赤になって廊下に出た。大会ではジェスチュアが目立ったのか特別賞をいただいた。先生の熱心な指導のおかげと感謝している。おおらかでゆったりした中学校時代だった。

自分史に割愛した 恩師の思い出

山内由紀子 (33年入学)

「読み聞かせ シンドバットにときめくや 楽し思い出ぎゅう 詰め学年」前年夏の入院生活がきっかけで刊行できた自分史の一節である。

小学校時代の思い出の恩師といえば、二年担任の菊地郁子先生がピカールである。女学校出の代用教員ながら、いつも子どもの心を汲みとり、楽しく、わくわくする学習を心掛けてくれた。

冒頭の「読み聞かせ」は、いつまでも心に残るすばらしい授業の一コマだった。以下は、先生と自分だけが持つ、私にとっては、宝石のような秘話である。一学期、初夏の頃、家庭訪問があった。父復員後、ばらばらになっていた家族が同じ屋根の下で暮らせるようにと父方親戚の薪小屋を借りる生活が始まっていた。そんな中での家庭訪問である。当日、本当に先生は来てくださるか不安だった。夕闇迫る頃、先生の姿が見えた時にはほっとした。同時にこんな住まいを見られるのが恥ずかしく、緊張感が走った。

一間の奥で、俯いて座っている自分。母が先生を出迎える明るい声。「こんな所に！よかったらどうぞ」と勧めたのは、はっと汁。先生はためらいもなく一箸口にされ「まあ、おいしいこと！」と笑顔を私の方にも向けられた。不安と緊張、安堵の日であった。

話は飛んで、中学校（佐沼中）で忘れられない恩師は、三年時、数学担当の鈴木重昭先生。

アラン・ドロンと見紛うようなマスクに長身。初めての授業で、真っ先に発問されたことは、「君達は、なぜ数学を学ぶのか」だった。指名された自分は月並みな返答しかできなかったが、その答えらしきものに出逢ったのは、卒業期。先生方から一言ずつのサイン帳に、あっさりと

「プロセスの充実を！」と書かれてあった。今でも人生訓として大切にしている。

ひとり一人の成長を見守り、 励ましてくれた先生方

岡本 章子 (58年入学)

私たち58P生は卒業30年という節目でありこの会報発行の頃には30年ぶりの楽しく懐かしい同期会を終えているかと思えます。大学や各学校教育現場で活躍していたり、専門職や公務の他国際社会で貢献したり、自ら事業を立ち上げたり、男女問わず皆さまさまざまな分野で活躍しています。多くが「人」を育て「人」と繋がる仕事をしていることが、教育学部卒業生らしいと感じています。さて頂いたテーマですが、実は私は転勤家庭で小中高で7校に通学しました。転校する都度、地域の文化や校風の違いに驚きましたが、共通していたのは、どこでも児童生徒1人1人の成長や変化に気づいてくれる先生がいたということです。小学校の女性の先生には恋の相談に乗ってもらいました。わずか10歳の、ませた女児の相談に真面目に助言をくれて、実りませんでした。よい思い出となりました。高学年の合唱部の先生には、コンクール用の難曲よりも「紅葉」や「大きな古時計」など私たちが歌いたい歌を数多く歌わせてくれ、練習の辛さより楽しさが上回る日々でした。中学時代はレベルも高く厳しい英語教諭で、当時では珍しくヒアリングと会話を重視する授業でした。毎日の宿題に一人一人コメントを書いて下さり、上達した時には必ず気づいて褒めてくれる先生でした。自然とラジオの英語ニュースに耳を傾け、成績が上がる楽しさを実感し、通訳か英語教諭の仕事に憧れた時期でもありました。

私にとって人生の節目節目で、励ましやステップアップさせてくれた先生がいてくれたおかげで今議員として「一人一人を大切にする」事に就いているのだと実感し、様々な恩師との出逢いに心から感謝しています。

「震災後のカップルセラピーについて」

東北大学大学院教育学研究科・教育学部教授・臨床心理相談室室長(平成28年11月12日講演時) 長谷川啓三

筆者(長谷川)は1984年に米国で家族療法の訓練を受けましたが、欧米で生まれた家族療法の中心には離婚に代表される夫婦関係の調整に関わる「カップルセラピー」と呼ばれるものがあります。

日本では不登校や家族内でのこどもの問題を解くための強力な心理学的ツールとして導入され発展してきましたが、実際、一見、こども自身の問題に見えるものが、実は家族の問題を反映していることが、年少児の問題であるほど確認できます。「こどもの問題というよりは家族問題である!」と、そのことを端的に示す言い方もしてきました。また、そう捉えた方が解決への道も開けることが多いのです。

例えば 非行グループの少年らと付き合い始め、最終電車が間に合わなくなる時刻に親に連絡を取ることが増え始めた女子高校生の問題を聴いていくと、背景に両親の離婚問題が隠れていたなどということが見られます。個人カウンセリングよりも、両親間の調整をやった方が早い場合が少なくありません。

興味深いことに、こどもの問題解決のためには、子供の前だけでも仲良くしてもらおう、例えば夕食時に少女の前で母が父の労をねぎらって父の口にアーンと食事を運ぶといった非言語的介入を薦めます。筆者の経験では、この21年間で同様の協力をもらえなかったことは一度もありません。さらに興味深いのは、そんな「操作的に見える介入」でも、問題が解決すると、離婚自体を考え直すというケースにも出会います。

ところがカップルの問題になると、なかなかそうもいかないこともあります。たとえば定年間近の夫が、過去の「微々たる」浮気を、それもとっくに終わってしまったことを、つい口にしたとします。大抵の場合、妻は夫をゆるしてくれません。

徹底的に浮気的全貌を明かすことを求めてきます。

「今後はしない、お前と生きてゆく」と誓っても、その前に、「本当のことの詳細」を求め、いわば「全身全霊での謝罪」を求めてくるケースが多いのです。このことは、日本だけではないようです。

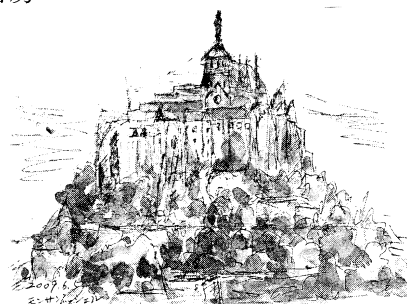
カップルセラピーを行う場合、カウンセラーも男女2人で入るのが標準です。来談された男女の、同性では小さいが、男女では決定的に大きな「差異」を、同性では「共感」していることを伝達する意味でも、標準の構造です。

こんなカップルセラピーに来談されるご夫婦、カップルが、首都圏では震災前から、仙台では震災後に漸増してきました。

1980年代半ばに日本へ入ってきた家族療法は子どもの問題の解決のためでした。しかし震災以降は欧米で生まれた本来のカップルセラピーが求められ始めたと感じています。

カップルセラピーを含む家族心理学的な実践を支える理論は「システム理論」です。以下に、家族療法、カップルセラピーを受けられる機関と入門書の紹介をさせていただき、まとめさせていただきます。

- ①相談機関 東北大学大学院教育学研究科付属
臨床心理相談室。土日祭日を除く毎日
午前9時半—午後4時半022-795-3144
- ②入門書 長谷川啓三著「ソリューションバンク」
金子書房



「モンサンミッシェル」(フランス) 小高幸子(33年入学)

平成28年度 仙台支部事業報告

顧問会・監査会
28年3月29日(火)
午前10時00分～
会場：文系総合研究棟
第1回支部役員会
28年5月14日(土)
午後1時30分
会場：文系総合研究棟
306教室

協議事項 ①会則改正案について・役員補充について
②平成28年度第37回総会時講師について
③その他

報告事項 ①平成27年度仙台支部事業報告・会計決算報告
協議事項 ①平成27年度仙台支部事業報告・会計決算報告の承認
②平成28年度仙台支部事業計画・会計予算案

③平成28年度第37回総会時講師について
④平成28年度仙台支部について
⑤「会報20号」発行について
⑥役員改選(事務局・年度理事改選)について

第2回支部役員会
28年8月20日(土)
10時00分～
会場：文系総合研究棟
306教室

協議事項 平成28年度仙台支部第37回総会について
①講演会講師・演題の確認
②総会・講演会・懇親会における理事の役割分担
③第3回支部役員会における理事の役割分担
④その他(各委員会から) 10月1日「会報20号」発行・総会案内状・会報・会費納入振替用紙等の発送事務依頼(10月1日(土)10時～)

第37回仙台支部総会
28年11月12日(土)13時～
会場：文系総合研究棟大会議室
第3回支部役員会
29年1月7日(土)
午後5時～
会場：ホテルJALシティ仙台

総演懇内 会 演 会 会 演 懇 内 容
記念講演(13:50～15:00)
講師 長谷川啓三氏「震災後のカップルセラピーについて」
(文系食堂15:15～17:30) 38名参加(含む学生4名)
①仙台支部第37回総会会計報告
②平成28年度仙台支部事業・支部会計中間報告
③平成29年度仙台支部事業計画案・会計予算案について
④第38回仙台支部総会日時の確認
⑤役員会・総会の持ち方について

平成28年度 東北大学教育学部同窓会仙台支部会計決算報告

平成29年3月31日

I 一般会計

1. 収入の部

(△ 予算額との比較減 単位:円)

	本年度予算額	本年度決算額	比較	備考
会費	250,000	324,750	74,750	296人分
繰越金	292,221	292,221	0	
雑収入	279	8,025	7,746	利子
合計	542,500	624,996	82,496	

2. 支出の部

(△ 予算額との比較減 単位:円)

事務局費	本年度予算額	本年度決算額	比較	備考
印刷費	100,000	56,944	△ 43,056	
印刷費	60,000	24,286	△ 35,714	印刷・コピー代等
消耗品費	10,000	7,514	△ 2,486	用紙、インク等
備品費	2,500	0	△ 2,500	文具類
事務手当	25,000	25,000	0	5,000×5人
雑費	2,500	144	△ 2,356	送金料、印字代
会費振込	25,000	27,470	2,470	会費振込手数料
会議費	50,000	33,868	△ 16,132	役員会他
通信連絡	100,000	86,560	△ 13,440	総会案内他
会報	75,000	73,720	△ 1,280	
印刷費	65,000	63,720	△ 1,280	会報印刷代
会議費	10,000	10,000	0	会報委員会会議
総会	60,000	35,000	△ 25,000	
会場費	20,000	0	△ 20,000	会場使用料
表示関係	5,000	5,000	0	演題、看板等
装飾	5,000	0	△ 5,000	
講演会	30,000	30,000	0	講師謝礼、車代
慶弔	10,000	0	△ 10,000	弔電他
雑費	10,000	3,188	△ 6,812	手土産代他
予備	112,500	23,000	△ 89,500	旅費、卒業祝賀会費
運用基金	0	0	0	
合計	542,500	339,750	△ 202,750	

※収入総額624,996円－支出総額339,750円＝残高285,246円は(次年度へ繰り越します)

II. 運用基金

前年度繰越し900,000円＋収入0円＝差引残高900,000円(次年度へ繰り越します)

会 計 監 査

平成28年度東北大学教育学部同窓会仙台支部の会計決算にあたり、通帳・会計出納簿・領収証を点検したところ、適正に処理されていたことを報告いたします。

平成29年3月30日

監事 吉野信武 印

監事 井本佳宏 印

平成29年度 東北支部事業計画(案)

顧問会・監査会
29年3月30日(木)
午前10時00分～
会場：文系総合研究棟
第1回支部役員会
29年5月13日(土)
午前10時～
会場：文系総合研究棟
306教室

第2回支部役員会
29年8月19日(土)
午前10時00分～
会場：文系総合研究棟
306教室

教育学部同窓会東北支部
第1回(仙台支部第38回)
29年11月11日(土)13時～
会場：文系総合研究棟大会議室

第3回支部役員会
30年1月6日(土)
午後5時～
会場：ホテルJALシティ仙台

- 協議事項** ①役員補充について ②平成29年度第38回総会時講師について ③その他 ④平成28年度会計監査
- 報告事項** 平成28年度仙台支部事業報告・会計決算報告
①平成28年度仙台支部事業報告・会計決算報告の承認
②平成29年度東北支部事業計画案・支部会計予算案
③平成29年度第37回総会時講師 ④平成29年度東北支部総会について
⑤「会報21号」発行 ⑥役員改選(事務局・年度理事改選)について
⑦東北支部での会員増について ⑧その他
- 協議事項** 平成29年度東北支部第1回(仙台支部第38回)総会について
①講演会講師・演題の確認 ②総会・講演会・懇親会における理事の役割分担
③第3回支部役員会における理事の役割分担 ④その他(各委員会～)「会報21号」発行
- 連絡事項** ①支部総会案内状・会報・会費納入振替用紙等の発送事務10月7日(土)
②第3回支部役員会の日時と協議事項・連絡事項
- 総 会** ①平成28年度事業報告及び会計報告について
②平成28年度会計監査報告の承認について
③平成29年度事業計画及び会計の中間報告について
- 講演会** 講師 佐々木徹郎氏「教育学部のあゆみ」
(会場 プッシュクローバーカフェ 15:15～17:30)
- 懇親会** ①東北支部第1回(仙台支部第38回)総会会計報告
②平成30年度東北支部事業・支部会計中間報告
- 報告事項** ①東北支部第1回(仙台支部第38回)総会の反省事項
②平成30年度東北支部事業計画・会計予算案について
③役員会・総会の持ち方について
④東北支部第2回(仙台支部第39回)総会日時の確認

平成29年度 東北大学教育学部同窓会東北支部会計予算(案)

I 一般会計

1. 収入の部

(△ 前年度予算額との比較減 単位:円)

	前年度予算額	本年度予算額	比 較	備 考
会 費	250,000	260,000	10,000	260人
繰 越 金	292,221	285,246	△ 6,975	
雑 収 入	279	254	△ 25	利子等
合 計	542,500	545,500	3,000	

2. 支出の部

(△ 前年度予算額との比較減 単位:円)

	前年度予算額	本年度予算額	比 較	備 考
事 務 局 費	100,000	100,000	0	
印刷費	60,000	60,000	0	資料、葉書等印刷
消耗品費	10,000	10,000	0	用紙、インク等
備品費	2,500	2,500	0	文具類
事務手当	25,000	25,000	0	5,000円×5人
雑費	2,500	2,500	0	送金料、印字代
会費振込費	25,000	30,000	5,000	会費振込手数料
会議費	50,000	50,000	0	役員会他
通信連絡費	100,000	100,000	0	総会案内、葉書代等
会報費	75,000	75,000	0	
印刷費	65,000	65,000	0	会報印刷代
会議費	10,000	10,000	0	会報委員会会議
総 会 費	60,000	60,000	0	
会場費	20,000	20,000	0	会場使用料
表示関係費	5,000	5,000	0	演題、看板等
装飾費	5,000	5,000	0	
講演会費	30,000	30,000	0	講師謝礼、車代
慶 弔 費	10,000	10,000	0	弔電他
雑 費	10,000	10,000	0	手土産代他
予備費	112,500	110,500	△ 2,000	旅費他
運用基金	0	0	0	
合 計	542,500	545,500	3,000	

II 運用基金

1. 前年度繰越 900,000円
2. 収 入 0円
3. 支 出 0円
4. 差引残高 900,000円(ゆうちょ銀行定期預金に)

講師プロフィール

(平成29年度 総会 講演会)

佐々木徹郎先生 (東北大学名誉教授)

略歴

大正13年2月21日、岩手県に生まれる。

昭和21年9月、東北帝国大学法文学部卒業。

25年5月、東北大学宮城師範学校教授

26年3月、東北大学教育学部講師、のち助教授、教授

40年3月、教育学博士 (東北大学)

以後、教育学部長、評議員、付属大学解放センター長等を歴任

61年3月、東北大学を定年退官、東北大学名誉教授。

61年4月、山形県立米沢女子短期大学学長

平成8年4月、同短期大学を満期退職

12年、勲二等瑞宝章、叙勲。

主な著書

『米国社会学と教育』京都書房、昭和35年

『現代社会の変動と運動』誠信書房、昭和45年

『コミュニティ・デベロップメントの研究』

御茶ノ水書房、昭和57年

その他、著書、論文、翻訳等多数。

フォトアルバム



昭和25年3月、教員養成1年課程修了式



昭和29年4月、学校教育学科新入生歓迎コンパ



昭和34年3月、学校教育学科追い出しコンパ(ゼミ複合)

会報発行委員会から

本号の特集には、数世代にまたがる本学部OGたちに「恩師の思い出」を綴っていただいた。今回の取材へのご協力やご寄稿には、委員一同、衷心よりの感謝を申し上げます。各文面には、戦時の苦難や反戦・非戦への痛切な思いがさながらに表明されている。戦争とは、歪んだ正義を立て、本来恥ずべき闘争心や攻撃心を合法化し、国家的な暴挙に拡大・構成する非道極悪にして低劣な営為であることを、改めて、思い知るべきである。母性を秘めた女性の深い思慮・判断が、往時の国政の場で機能していたならば、こうした国難は回避できたはずである。いま、女性の活躍する時代をやっと迎え、快哉を叫びたい思いに駆られるのは私たちだけであろうか。(太田將勝)

《会費納入のお願い》

年会費1,000円

平成29年度分の会費納入につきましては、総会・講演・懇親会ご出席の方は、受付で直接ご納入いただきますよう、お願いいたします。(振込用紙での送金には、130円程度の郵送料が必要となり、当方負担のこの郵送料軽減のためにも、直接お支払いいただきますなら、大変幸いです)

ご郵送いただきます場合、同封の振込用紙をご使用ください。(軍司 啓)

教育学部同窓会事務局だより

本部同窓会事務局長 神谷 哲司 (H2年入学)

本部同窓会は、ここ数年、「現役学生にタスキをつなぐための同窓会」をキャッチフレーズに、現役学生の同窓会への意識を高める活動を進めています。

平成28年度には、同窓会事業として、例年通り、(1)卒業・修了学生の祝賀会援助事業、(2)現役学生への海外学会発表渡航費援助事業、(3)仙台支部寄附金による博士論文執筆援助事業、さらに(4)「キャリア支援セミナー」を開催いたしました。

「キャリア支援セミナー」は、後期授業のオリエンテーションの日に、「進路選択いろはのい！」と題して開催されました。前年度に比べ、出席者はそれほど多くはありませんでしたが、猫の目のように変わる就職状況について真剣に耳を傾ける学生の姿が印象的でした。

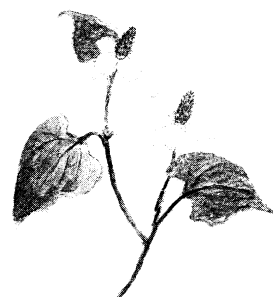
平成29年度の同窓会事業といたしましては、上述の4つの事業はもとより、上記の(2)海外学会発表渡航費援助事業、(3)仙台支部寄附金による博士論文執筆援助事業に加え、昨年度より準備を進めていました2事業を新たに加えることといたします。一つ目は、卒業研究学会発表援助事業で、博士課程前期の学生が自身の卒業研究を学会発表の際の学会参加費や旅費を援助するものです。さらに、もう一つは、学部生学会参加費援助事業といい、学部生のうちに各種学術大会に参加する際の参加費や旅費を援助する事業です。このことにより、本教育学研究科・教育学部が担う高度専門職養成、研究者養成に向けて、学部生の時から博士課程後期までのキャリア支援を行う体制が整うこととなります。

また、学部生など学生会員を含めた東北大学教育学部同窓会会員相互交流促進支援事業も新たにスタートいたします。これは、平成27年度に2回開催されましたOB・OG懇談会のように、世代を超えた同窓会の会員同士の相互交流を支援する

ことを目的とし、今回、新たな事業として立ち上げられました。具体的な内容に関しましては、同窓会のウェブ・ページにて追ってお知らせいたします。今後同期会などを企画されているみなさまに対しまして、現役学生との懇談の場を設けるなどのご希望がございましたら、なにとぞ、本事業の支援をご活用いただけますと幸いです。お気軽に同窓会事務局 (sed-alumni@sed.tohoku.ac.jp) までご相談ください。

また、近年は全学同窓会である萩友会の活動も活発になっております。今年の「東北大学110周年ホームカミングデー」におきまして、周年幹事による「思い出ステージ」が催されました。来年の111周年ホームカミングデーにおきましても、卒業後50・40・30・20・10周年にあたる卒業生（昭和43年、昭和53年、昭和63年、平成10年、平成20年卒業）のみなさまにお声がけさせていただくことになりたくと存じますので、よろしく願い申し上げます。ホームカミングデーについては、萩友会ウェブページをご覧ください。

末尾になりますが、本号の会報テーマが女性の活躍とのことで、同窓のお姉さま方がご寄稿なされているかと思われまします。そのご活躍を拝読しながら、今後の同窓会活動においても、女子学生の多さを特徴とする教育学部ならではの活動を進めていければと存じます。社会的なジェンダーや世代の問題を超えつつ、今後とも卒業生と現役学生とをつなぐ同窓会でありたいと思っております。なにとぞ、引き続きみなさまのご厚意とご助力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



小高幸子(33年入学)

仙台支部役員名簿

(平成27. 11. 8～平成29総会時)

事務局・各委員会

顧問	25 高橋 公正	26 佐々木一洋
	28 永野 昌一	31 雪江 美久
	36 岡崎 忠	36 阿部 琢也
	37 関口 隆	大学 高橋 満
支部長	39 渡邊 宣隆	
副支部長	39 軍司 啓	39 鹿野 毅
	50 吉川 邦彦	
参与	24 富塚 英雄	
〃	29 石森 幸子	31 柘澤 怜
〃	32 佐々木亀三郎	33 佐藤 健仁
〃	35 伊藤 昭	39 大浪 榮一
〃	元学部長 菅井 邦明	元学部長 菊池 武剋
〃	元学部長 荒井 克弘	元学部長 細川 徹
〃	元学部長 宮腰 英一	元学部長 本郷 一夫
理事	24 佐藤 弘	
〃	25 高橋 公正	25 静田 一
〃	26 池田 和夫	26 三浦 貞昌
〃	27 青木 敏浩	27 阿辺 博亮
〃	28 小關 幸生	28 桂島 新一
〃	29 市川 宏	29 佐藤庸太郎
〃	30 千葉 俊雄	
〃	31 今野 健	31 福井 正子
〃	32 煤田 泰蔵	32 村上 重作
〃	32 竹澤錬太郎	
〃	33 金岡 昭房	33 山形美也子
〃	34 工藤 忠久	
〃	35 泉 豊	35 岡本 幸子
〃	36 小野 惇夫	
〃	37 賀屋 義郎	37 中川 典雄
〃	38 文屋 優	38 文屋 國昭
〃	39 朴澤 徳昭	39 太田 將勝
〃	40 吉野 信武	
〃	41 安住 裕	48 櫻田 博
〃	50 別府 成裕	
〃	51 日下 毅	51 佐藤 邦宏
〃	52 白澤 利広	54 南城 一之
〃	57 川上 芳夫	H 4 吉植 庄栄
監事	40 吉野 信武	大学 青木 栄一
大学理事	後藤 武俊	

事務局			
事務局長	39 軍司 啓		
事務局補佐	37 関口 隆		
会則検討委員会			
委員長	31 柘澤 怜		
副委員長	31 今野 健		
委員	25 静田 一	28 桂島 新一	
	39 軍司 啓		
名簿作成委員会			
委員長	33 金岡 昭房		
副委員長	35 泉 豊		
委員	25 高橋 公正		
会報発行委員会			
委員長	39 太田 將勝		
副委員長	31 福井 正子		
委員	38 文屋 優	50 吉川 邦彦	
会計委員会			
委員長	29 石森 幸子		
副委員長	39 朴澤 徳昭		
委員	35 板野 優子	39 岩井 良樹	

後記

会報21号をお届けいたします。ご多用のなか、取材にご協力いただき、ご寄稿いただきました方には、衷心より、感謝申し上げます。

総会にご出席の際には、この会報をご持参いただきますようお願いいたします。

事務局

〒982-0262 仙台市青葉区西花苑2-7-18

軍司 啓 TEL 070-5322-3322